

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2018 年 1 月 25 日 VOL.41 第 284 号 定価 550 円
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail: member@amda.or.jp
 郵便振替: 01250-2-40709 □座名: 特定非営利活動法人アムダ

2018 年
冬号

冬

救える命があればどこへでも

2018 年 新春のごあいさつ

AMDA グループ代表 菅波 茂



から構成される医療チームをベースに、ネパール支部やインドネシア支部など各支部の医療スタッフに加えて、外部の意欲と能力がすぐれた協力団体が参加する「GPSP 多国籍医師団」として活動を行います。

気候変動による災害が世界的に多発しています。「救える命があればどこまでも」のスローガンのもとに「GPSP 多国籍医師団」を編成して随時派遣をします。その派遣の母体となる「世界災害医療プラットフォーム (国+医師会+NGO/NPO+大学+企業の5者連携)」の構築を数年前から進めています。なお、日本版である「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」も4年前から準備を進めています。お陰様で対応能力も向上してきています。

AMDA の「救える命があればどこまでも」の挑戦に対して皆様のご理解とご支援に感謝するとともに、本年もよろしくお願い申し上げます

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>
 AMDA 兵庫
<http://amda-hyogo.com/>

「平和とは今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況である。これを妨げるのが紛争、災害と貧困である」との AMDA の平和の定義に従って、本年も活動を続けます。その活動の三原則は「開かれた相互扶助」、「パートナーシップ」と「ローカルイニシアチブ」です。

2018 年 1 月 27 日から 2 日間、マレーシアの首都クアラルンプールで 2018 年 AMDA インターナショナルアジア会議を開催します。協力関係にある外部の団体からもたくさんの方々に参加していただき 2018 年の活動方針と内容について叡智を集めて討議します。上記の三原則を大前提とした、「世界平和パートナーシップ (GPSP)」構想の平和構築、健康増進、教育支援そして生活支援の 4 分野における実施すべきプログラムとプロ

ジェクトを確認します。内容は後日報告をさせていただきます。

特に注目していただきたいのは、2017 年 5 月頃からミャンマーからバングラデシュに流入して大きな国際問題になっているロヒンギャ難民支援医療プロジェクトを 1 年間実施することが正式に決まったことです。実質的には AMDA バングラデシュ支部が 10 月の現地調査にもと基づいて 11 月から医療チームを派遣して活動を始めました。日本からも 11 月に看護師 1 名を調査派遣し、12 月に医師 1 名を派遣しました。今後も定期的に医療スタッフを派遣します。日本とバングラデシュ支部

フィリピン大統領府と協力協定を締結

2017 年 11 月 27 日、フィリピンのマラカニアン宮殿にてフィリピン大統領府と AMDA は協力協定を締結しました。

大統領府長官であるレオンシオ・エバスコ氏、大統領府長官筆頭秘書官であるグロリア・メルカド氏と AMDA が協力協定に署名し、フィリピン、日本、または他国における災害時の支援に加え、フィリピンにおける医療、教育、生活分野における活動でも協力していきます。

また同日、フィリピン開発安全女性委員会 (WOMEN IN NATIONAL DEVELOPMENT AND SECURITY, (WINDS) INCORPORATED) とともに、同分野で協力していくべく協力協定を締結しました。



東北の活性化へ地元住民がイベント

東日本大震災の被災地・福島県浪江町の町役場敷地内で10月7日、地域活性化イベント「復興グルメF-1大会」と「なみえ復興祭」が同時開催され、多くの住民らでにぎわいました。

復興グルメF-1大会は、被災地の商店街から出品された自慢の逸品を来場者が味わい、投票でNO.1を決める大会。15回目の開催で、なみえ復興祭実行委員会・復興グルメF1大会実行委員会の合同主催で、AMDAが協賛しました。なみえ復興祭は、東京電力福島第1原発の事故で全域が帰還困難区域となっていた浪江町が2017年3月31日、一部で避難指示が解除されたのを受けて企画。震災後、同町では初の復興祭となります。

当日は岩手、宮城、福島県から「石巻の宝箱」「さんまメンチ」などを販売する11のブースが並び、雨天にもかかわらず午前10時の開会前には100人を超す行列ができる盛況ぶり。約1時間後には「売り切れ」の張り



復興グルメを販売するブース

紙が相次ぎました。

復興グルメNO.1はNo Donco No Somaの「海鮮茶わん蒸しSP」（福島県相馬市）が選ばれました。

AMDAは、福島県浪江町で開かれる「第15回復興グルメF-1大会」と「なみえ復興祭」を支援するため、現地へ向けボランティアバス

AMDAがボランティアバスを運行

を運行しました。
参加した17～71歳の22人は10月6日夜、JR岡山駅西口をバスで出発。翌7日朝に浪江町に到着し、各ブースに入って来場者にグルメの購入を呼び掛ける

などしました。

8日は浪江町を巡るスタディーツアーを実施。地元で地域コーディネーターを務める押田一秀さんから地域産業の育成などの取り組みを聞きました。帰途の車中ではボランティアの意義やツアーの感想などを話し合いました。

東北は前進しています

宮城県気仙沼復興商店街・佐々木笑子さん

東京電力福島第1原発の事故で全域が帰還困難地域となっていた福島県浪江町。一部が避難指示解除となりましたが、私が見た街は人をほとんど見かけず、静まり返っていました。



商店は営業しておらず、民家の入り口は進入禁止の高いフェンスで閉ざされていました。生活の気配が感じられないのです。自分の家があるのに帰れない。この場所で生活してきた方々の心情を思うと、何とも言えない気持ちになりました。

その浪江町で10月7日、「なみえ復興祭」とともに「復興グルメF-1大会」が開催されました。前日の夜は震度5の福島沖地震。大会当日は朝から降りしきる雨。それでも会場の町役場前広場は多くの方が訪れ、元気な声と笑顔であふれました。

東北はまだまだ復興途中ですが、確実に前へ進んでいます！！

「頑張っています」

浪江町役場に向向
赤磐市役所・平井 智子さん



「腰を据えて被災地を支援したい」。

自発的に浪江町への出向を希望し、2016年4月から本庁舎で勤務している赤磐市役所・平井智子さん。

現在は産業振興課に在籍。町の観光・産品振興やプレミアム付き商品券の発行、毎月開催のイベントのほか、夏祭り、秋祭りにも手掛けるなど多忙な日々を送っています。

東京電力福島第1原発の事故で全町が帰還困難区域に指定。17年3月31日に一部で避難指示が解除され、「少しずつ町に活気が出てきた」と喜んでいきます。

一方で、震災前に2万1400人だった人口のうち、9月末現在の帰還人口はわずか381人。約1千軒あった事業所も、町内で再開しているのは74事業所に留まっています。「街の姿を取り戻したい。これからが本番」

「地元の人は穏やかで、親切にしてもらっている。浪江町は“第二の古里”と話し「町民の方が笑顔で暮らせるよう全力で頑張りたい」と意欲を見せていました。(談)

生協おかやまコープと協定 10 周年

生協おかやまコープ主催の「AMDA 協定 10 周年のつどい」(AMDA、AMDA 社会開発機構共催)が 10 月 23 日、岡山市内で会員ら約 100 人が出席して開かれました。

おかやまコープの平田昌三理事長が「協定を結び、AMDA 基金を設けたのは、会員の提案がきっかけでした。今後も“岡山発国際貢献”を一緒に発信していきたい」とあいさつ。AMDA ボランティアセンターの成澤貴子センター長は“多様性の共存”を大切にする事で平和を目ざしたい」と述べました。AMDA 職員と AMDA 社会開発機構の業務調整員は、フィリピンやネパール、ホンジュラスの取り組みを発表しました。

協定は 2007 年、国際協力支援活動のパートナーとして双方が締結しました。生協おかやまコープは「支援の最終目的は支援を受ける方々の自立。お互いの心を許し合う関係づくりを支援の根底にしたい」としています。



開会の挨拶をするおかやまコープ・平田昌三理事長

AMDA をもっと知って

各地でパネル展



賑わった「小春日和の書展」

上金を募金箱に入れて頂きました。書展は今年で 15 回目。小学生からお年寄りまで約 100 人が作品を展示し、会期中、延べ約千人の住民らにぎわいました。

小春日和の書展

“農民書家”として知られる小野田松濤さん(岡山市北区櫛津)と門下生による書道展「小春日和の書展」が 11 月 24 日から 3 日間、同所の母屋やログハウス「風の家」、果樹園、選果場など 7 カ所で開催。AMDA も小野田さんのご厚意で、道路沿いの広場にパネルなどを展示させて頂きました。

パネルは、AMDA が救援活動に出向いたインド北部洪水、熊本地震などの惨状を伝える 30 枚(A3 判)と、AMDA の歩みを記した 9 枚を掲示。地元の方から寄贈を受けた柿、カボチャも会場に並べ、購入した主婦らは売

旧大國家住宅

AMDA は 9 月 30 日から 2 日間、岡山県和気町の地域活性化イベント「和気ものづくりフェスタ 2017」の会場の一つとなった旧大國家住宅(同町尺所)で、国際医療ボランティア活動を紹介する写真パネルを展示しました。

パネルは A3 判、計 40 枚で、モンゴルでの眼科健診など中長期的な取り組みをはじめ、メキシコ沖地震などの緊急医療支援、AMDA 中学高校生会のスリランカ和平構築などの活動を紹介。1984 年に発足した AMDA のこれまでの歩みも年表で紹介しました。

旧大國家は江戸期の 1760(宝暦 10)年、大地主の邸宅として建築。全国でも珍しい「比翼入母屋造り」で、国重要文化財に指定されています。



旧大國家住宅にて写真パネルで活動を紹介

ガヤ大学と協力協定を締結

2017 年 11 月 14 日にインド・ビハール州ガヤにあるガヤ大学と AMDA は協力協定を締結しました。今年 9 月に起こった洪水被災者への支援活動と一緒に、今後も協力して活動を行っていきます。

AMDA を支えてくださっている支援者の皆様、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜び」シリーズ。15回目となる今回は岡山経済同友会の代表幹事（両備ホールディングス社長）として、AMDA の活動にご支援をいただいている松田久さんにお話を伺いました。

国連機関と密接な関係

AMDA 本日はお忙しい中、ありがとうございます。AMDA には度重なるご支援をいただき感謝しています。



松田 AMDA とのかかわりは、私が岡山青年会議所理事長をしていた1994年、菅波茂理事長と会ったのがきっかけです。菅波理事長が提唱された「西のジュネーブ、東の岡山」をスローガンとする“世界都市岡山構想”に関心があり、「どんな人物か知りたい」と私から面会を申し込みました。すぐに意気投合しました。岡山を相互扶助に基づく世界のローカル NGO の集積地にするため、行政の首長や国会議員の皆様にも協力をお願いしています。

AMDA 日本での大規模災害時の連携を探るため2017年1月、岡山経済同友会の松田代表幹事と菅波

理事長がジュネーブを訪問、各国連機関と密接な関係を構築されました。

松田 主な訪問先は国連人道問題調整事務所（OCHA）、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）、世界保健機関（WHO）など6機関です。「日本で近い将来、30万人以上の死者が出る大災害が起こることは知らなかった」「3年以上も前から事前準備をしていることに感心した」一などの反応がありました。さらに、国内での大規模災害時には岡山が支援拠点として最適であるとの説明に理解をいただきました。

社会に役立てることは喜び

AMDA 岡山経済同友会は東日本大震災と熊本地震の際、学生らに参加を募りボランティアバスを運行。AMDA 南海トラフ災害プラットフォームにも多くのご支援をいただいています。この中で松田代表幹事が初めて提唱された「流通備蓄」「ミッション産業」の言葉に感銘を受けました。

松田 「流通備蓄」は発生時期が不透明な災害に対して事前の備蓄を改め、本来の業務の中で対応できないかと考えました。「ミッション産業」は社会になくってはならない存在として、社会貢献を使命とする企業の在り方を示しました。社会に役立てることは、私にとって喜びであり、やりがいとなっています。

AMDA 家庭の貧困など諸問題を抱える子どもの居場所づくりを目指す「こども食堂」の取り組みが活発化しています。12月23日のAMDA

こども食堂支援プラットフォームの立ち上げにもご協力をいただきました。

松田 「子どもは社会の一員」として考え、育て方に関わっていくのも企業の役割。バックアップは惜しまないつもりです。

障がい者の姿に元氣もらう

AMDA 知的障がい者のスペシャルオリンピックス日本・岡山の会長も10年以上にわたって続けられています。

松田 日常的なトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。まじめで一生懸命に取り組む選手の姿を見て、私自身が元氣をもらっています。

AMDA 岡山シティエフエム（愛称レディオモモ）では毎月第一月曜日午後7時から1時間、5年間にわたってディスクジョッキーとして活躍され、同社の赤田社長は「人気番組の一つ」と喜んでおられました。

松田 これまで県知事や岡山市長、企業の社長、マラソンの有森裕子さんらをお招きました。ゲストの人間性を引き出し、テンポのよい会話を心がけています。

AMDA 行動派で、あらゆる部門で素晴らしい才能を発揮される姿に感銘を受けました。AMDA も一層の努力を重ねてまいります。引き続きご支援をよろしく願います。



2016年3月の協定調印式にて

ロヒンギャ難民へ長期支援を決定

2017年8月末以降、ミャンマーから隣国のバングラデシュに逃れるイスラム系少数民族・ロヒンギャ難民は増加の一途をたどっています。以前からバングラデシュに住む難民約20万人と合わせると、約85万人と推定されています。AMDAが11月8日、難民キャンプに看護師兼調整員を派遣、現地調査した結果、簡素な仮設テントが見渡す限り続き、電気はなく、トイレも糞尿であふれる劣悪な環境であることが分かりました。仕事がなく、現金収入を得るのも非常に難しい状況が続いています。

このため、AMDA本部は今後1年間、AMDAバングラデシュと日本バングラデシュ友好病院とともに定期的に医師、看護師を派遣する長期支援の方針を決定しました。



難民キャンプで診療を待つ人々



仮設診療所で診察を行う米田医師

難民キャンプに医師派遣

医療支援の第1号として12月11日、米田哲医師（北九州市在住）がバングラデシュに向かいました。難民キャンプは首都・ダッカから約300km離れたコックスバザール県クトゥパロン(Kutupalong)にあります。23日まで滞在し、仮設診療所で1日約120名の患者を診察しました。

バングラデシュ支部も懸命な支援

AMDAバングラデシュ支部のスタッフは支部長のナイーム医師を中心にコーディネーター、看護師・助産師、ボランティアら9人で構成。1日約120人の患者の対応に追われています。12月31日現在の総患者数は7,398人となっており、症状は下痢や風邪、皮膚病が目立ち、妊婦が多いのも特徴です。スタッフは「着実に支援を続けることが大切」として今後は、長期的な平和構築プログラムを視野に入れた活動を目指しています。

難民支援へ募金活動

ロヒンギャ難民への継続的な支援を決めているAMDAは11月10日に続き、2回目の募金活動を12月14日、JR岡山駅とイオンモール岡山の連絡地下道で実施しました。

会場には難民の生活ぶりを紹介するパネル(A3判)6枚を掲示。ブルーのアムダカラーのジャンパー姿の職員、ボランティア10人がチラシ200枚を配りながら市民に協力を求めました。

市民から「こんな残酷なことがなぜ起きたのか」「AMDAさん、頑張ってください」と温かい励ましとともに、快く募金に応じて頂きました。若いカップルは「たくさん子どもたちが心配。全員助



かれ」と大きな声を出して、ポケットから持ち金の全額を取り出して寄付してもらいました。

トマト銀行が難民支援に寄付

トマト銀行（岡山市北区番町）からロヒンギャ難民支援指定として12月15日、AMDAに寄付をいただきました。

同銀行が11月中に展開した商品「AMDA国際医療貢献定期預金」の預け入れ総額に応じた寄付金で、今年で3回目です。

AMDA本部（岡山市北区伊福町）で寄付金贈呈式があり、同銀行の井上正樹・執行役員営業統括部長が「社会貢献の一環として実施していますが、お客様のお陰で昨年を上回る総額となりました」とあいさつ。目録を受け取ったAMDAボランティアセンターの小池彰和名誉センター長は「温かい心遣いをありがとうございます」とお礼を述べ、感謝状を同銀行に贈呈しました。

続いて、11月にロヒンギャ難民キャンプで現地調査をしたAMDA本部職員で看護師兼調整員は食糧や水、医薬品などが不足している難民の生活ぶりを説明。「今も1日に約5千人がミャンマーからバングラデシュに移動している」と話しました。



井上正樹執行役員営業統括部長（左）より贈呈を受ける小池彰和名誉センター長

| <講演> | 内容 | 主催 |
|----------------------------------|---------------------------------|----------------------|
| 7月10日 | 大規模災害への備えと市民のネットワーク | NPO 赤磐市市民活動支援センター |
| 7月15日 | 「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」の構築について | 関西学院大学災害復興制度研究所 |
| 9月16日 | 防災講演・九州豪雨などの国内災害の現場と備えについて | 倉敷市乙島小学校区自主防災組織連絡会 |
| 9月21日 | AMDAの活動を通しての人権 | 倉敷市立北公民館 |
| 9月24日 | 「貧困撲滅のための国際デー」によせて | WFWP 国際協力シンポジウム実行委員会 |
| 10月1日 | AMDAの国内災害対応の活動 | 岡山市立妹尾小学校 PTA |
| 11月12日 | 国内災害被災地での活動について | 社会福祉法人恵風会 |
| 11月22日 | 第17回全国福祉村サミット | 主管法人 社会福祉法人旭川荘 |
| 12月15日 | 国内外の様々な災害被災地での活動報告 | 岡山県立岡山南高校 |
| <大学他講義> | 内容 | 学校名 |
| 7月11日 | 学生生活概論 | 就実大学 |
| 8月31日、9月7日、10日、14日、21日、28日、10月5日 | 災害看護 | 相生市看護専門学校 |
| 9月8日、11日 | 災害医療援助特論 | 岡山県立大学大学院 |
| 9月10日 | 災害医療援助特論 公開講座 | 岡山県立大学大学院 |
| 10月3日、11日、11月1日 | 国際医療論 | 山陽学園大学大学院 |
| 10月17日 | 国際的な災害看護について | 岡山県立真庭高校専攻科 看護 |
| 11月1日 | グローバル人材育成講演会 | 広島市立大学 |
| 11月9日 | 国際看護-海外における看護活動の実際について | 岡山県立津山東高校 看護科専攻科 |
| 11月24日、12月5日 | 国際看護 | 旭川荘厚生専門学院 |
| 12月12日 | ボランティア活動について | 大学コンソーシアム岡山 |
| <イベント開催及び参加 パネル展示> | | 主催 |
| 7月1日 | AMDAの集い in 関西 | AMDA、AMDA 兵庫 |
| 7月22日 | 第4回 AMDA 災害鍼灸チーム育成プログラム | AMDA |
| 7月23日 | 第4回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム | AMDA |
| 8月4日 | まちかどトーク | AMDA |
| 9月3日 | 岡山市防災訓練西大寺ブース参加、備前市防災訓練参加 | 岡山市、備前市 |
| 9月4日 | まちかどトーク | AMDA |
| 9月19日 | AMDA 西嶋理学療法士ネパール地震復興支援活動報告会 | AMDA |
| 9月23日 | コープフェスタ2017 ブース参加パネル展示 | 岡山市コープ |
| 9月24日 | 第31回神辺福祉まつり | 福山市社会福祉協議会 |
| 9月24日 | のどろ農場稲刈り体験 | のどろ農場 |
| 9月30日、10月1日 | 和気ものづくりフェスタ 大国家住宅会場でパネル展示 | 和気町 |
| 10月7日 | 第15回復興グルメF-1大会 in 浪江町 | 実行委員会・AMDA |
| 10月13日 | 玉野東児地区文化祭にてパネル展 | AMDA 玉野クラブ |
| 10月14日 | 備前焼まつりにてパネル展示 備前焼まつり | 天津神社 |
| 10月20日 | 「アットホームカフェ」でのAMDAコーナー「まちかどトーク」 | おかやまコープ岡山西エリア |
| 10月23日 | おかやまコープ・AMDA 連携協定10周年記念のつどい | おかやまコープ・AMDA |
| 10月27日、28日 | 学園祭にて緊急医療支援活動パネル展示 | 旭川荘厚生専門学院 |
| 10月28日 | 文化祭にて緊急医療支援活動他パネル展示 | おかやま山陽高校 |
| 10月28日、29日 | 学園祭にて緊急医療支援活動他パネル展示 | ノートルダム清心女子大学 |
| 10月29日 | AMDA ルワンダ小児医療・学校保健支援活動報告会 | AMDA |
| 11月18日 | 一宮わくわくふれあいひろばにてパネル展示 | 岡山市中山学区連合町内会、わくわくワーク |
| 11月19日 | 第1回 AMDA・赤磐市防災国際フォーラム | 赤磐市、AMDA |
| 11月18日、19日 | 神辺本陣茶華会にてパネル展示 | 神辺歴史と文化を活かしたまちづくり事業 |
| 11月24-26日 | 第15回記念小春日和の書展にてパネル展示等 | 松濤書院(小野田松濤一門) |
| 12月23日 | AMDA こども食堂支援プラットフォーム発足フォーラム | AMDA |

..... 2月に「第61回 洋蘭展」

岡山県洋蘭協会主催の「第61回洋蘭展」(AMDA 共催)が「咲かせよう 美しい花、みんなの夢～AMDA とともに」をテーマに開かれます。会場では作品の展示や洋蘭教室、即売チャリティーコーナーが開設されます。

会期 2018年2月2日(金)～4日(日) 時間 午前9時～午後5時
会場 農マル園芸吉備路農園特設会場(総社市西郡411-1)
料金 無料

※多くの皆様からのご寄付、本当にありがとうございます。お名前記載の誤りなどがございましたら、恐れ入りますが事務局までお知らせください。

※書き損じハガキ、未使用切手を集めておられます。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



京山中学校様



吉備学区連合町内会様



黒住教様



赤磐市立磐梨中学校様

台風被害のフィリピンで緊急支援

クリスマス前の 12 月 16 日に台風 26 号、同月 22 日に 27 号が相次いでフィリピンに上陸し、甚大な被害をもたらしました。AMDA 本部は職員ら 3 人を相次いで現地に緊急派遣、両被災者に対する緊急支援活動を行いました。

両台風により土砂崩れや洪水被害などが発生し、211 人の死者が出ました。265 万人以上が被災し、約 122 万人が避難をする事態となりました(12 月 31 日フィリピン政府発表)。

AMDA は 19 日、マレーシアに滞在中の AMDA 山崎希看護師を派遣し、現地協力者と最新情報に基づき支援内容を協議。22 日には三宅孝士理学療法士(赤磐市役所から AMDA に向かう)、大山マージョリー調整員(総社市外国語指導助手/岡山倉敷フィリピンサークル代表)の 2 人が現地へ向け出発し、台風 26 号で被害を受けた中部ピリラン島及び台風 27 号が上陸した南部ミンダオ島での被災者にコメや水等の食糧を合計 17 カ所 1,511 世帯に配布しました。活動を終え帰国したフィリピン人



支援物資を配布する AMDA 調整員たち

の大山調整員は「両台風ともに、政府による 3 日分の食糧支援が終わるころに AMDA の食糧支援物資が被災者に届き、とても喜んでもらえて本当に良かったです。ご支援いただきありがとうございます。と母国への支援に対する感謝を述べられました。

こども食堂支援プラットフォームが発足

AMDA は 12 月 23 日、「AMDA こども食堂支援プラットフォーム発足フォーラム」を開催。こども食堂は、家庭の貧困など諸問題を抱える



子どもの居場所づくりを目指し、県内各地で取り組みが活発化しており、子どもの健やかな成長を願ってこのプラットフォームを発足させました。

フォーラム発足を記念し同日 AMDA は、岡山市北区の岡山国際交流センターで、「こども食堂の支援と社会の役割」と題してフォーラムを開催。AMDA グループ代表の菅波茂代表がコーディネーターを務め、パネリストとして友實武則赤磐市長、沖陽子県立大副学長、松田久岡山経済同友会代表幹事、直島克樹医療福祉大講師の 4 人が熱心に討議しました。

続いて、直島講師が「フォーラムの総括と展望」と題して講演しました。100 人を超える聴衆が熱心に聞き入っていました。茶話会も開かれ、出席者らは和やかに懇談しました。

同プラットフォームは行政や教育、財界など県内の各団体でつくる世話人会(代表・友實市長)が推進組織。米や副食の購入費をはじめ、職場見学とボランティアの場の提供を目的としており、菅波代表は「相互扶助の精神で社会全体が子どもをバックアップする機運の醸成に努めたい」としています。

世界の共通言語は“笑顔”

赤磐で防災国際フォーラム

AMDA と岡山県赤磐市共催の「防災国際フォーラム」が 11 月 19 日、赤磐市内の桜が丘いきいき交流センターで開かれました。AMDA と赤磐市が締結している災害時の連携協力協定に基づき、初めて企画した催しです。

フォーラムは、AMDA グループの菅波茂代表と赤磐市の友實武則市長が対談。続いて、AMDA 中学高校生会の代表 6 人がスリランカ紛争後の復興支援活動の取り組みについて紹介し、スリランカの若者と交流した感想として「共通言語は英語でなく“笑顔”」と述べました。

2 月 18 日に

「第 4 回被災地間交流フォーラム」

AMDA 主催の「第 4 回被災地間交流フォーラム」(赤磐市・赤磐市社会福祉協議会後援)が 2018 年 2 月 18 日(日)、赤磐市下市の山陽老人福祉センターみのり荘で開かれます。

テーマは「東北三陸沿岸復興支援と南海トラフ地震への備え」。

岡山経済同友会の松田久代表幹事が「大規模災害時の支援拠点岡山」▽宮城県気仙沼南町紫神社前商店街の事務局長が「地域の復興の状況」▽高知県黒潮町の職員が「事前復興の視点から考える地域復興」などについてそれぞれ講演。フリーディスカッションもあります。

午後 1 時半～4 時半。無料。